

平成28年度 学校評価総括表 伊丹市立西中学校

教育目標		確かな学力と豊かな心を持ち、健康でたくましい生徒の育成を図る ～知育・徳育・体育・食育の調和のとれた人づくり～						
重点目標		(1)基礎・基本の学力と、よりよい学習習慣の定着を図り、自ら考え学ぶ自己学習力を育成する。 (2)日々の生活や行事を通して、集団としての質を高め、よりよい生き方を求める人間を育成する。 (3)基本的生活習慣を確立し、健康な体、体力の向上、望ましい食習慣を育成する。						
項目		重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	基礎・基本の徹底と、授業改善	・基礎的、基本的な知識・技能を習得する。 ・授業力の向上と授業の改善をめざした校内研究会を実施する。 ・小中連携を進める。	・教職員全員が授業細案を作成し公開授業を行う。 ・スモールステップの学習に努め、復習演習の時間を確保する。 ・学習状況調査の分析結果を各小中学校に提供する。 ・ICT活用の授業作りに努める。 ・小テストやドリル学習などを繰り返し行い、基礎学力の定着に努めて、よりわかりやすい授業を展開する。	・生徒アンケートにおいて「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合が80％以上になる。また、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の成果を適切に評価している」と回答した割合が85％以上になる。 ・わかりやすい工夫した授業を行う。	C	・生徒アンケートにおいて、「先生は事前に評価の仕方を説明し、学習の効果を適切に評価している」と回答した割合が88.0％になり、目標達成できている。しかし、「授業は、わかりやすく楽しい」と回答した割合は75.0％と2回連続で上昇しているものの、目標達成とはならず、課題が残る結果となった。	・今後もシラバスを活用し、事前に評価の方法を説明し、適切に評価を行う。 ・ICTを効果的に活用する。 ・導入で本時の目標を示し、授業の最後で振り返りを行う。 ・机間指導を効果的に行い、質問しやすい環境をつくる。 ・週末課題を事前に知らせ、家庭学習の定着と提出の徹底をはかる。 ・学習優先を充実させる。 ・「家庭学習の」を使用しての家庭学習の推進を行う。	・机間指導については教科担任がその大切さを理解した上で行うべきである。 ・生徒への週末課題や学力向上委員会の立ち上げなど本年度からの取り組みを次年度以降も継続してもらいたい。 ・自己評価Cは目標値が高すぎないか。
	思考力・判断力・表現力の育成	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。 ・生徒、教職員ともに表現力を伸ばす。	・4人班を基本とし、ホワイトボードを活用するなどした、グループ討議や発表場面を取り入れる。 ・ICTを活用した授業を行う。 ・各教科で携帯タブレットや電子黒板の活用を増やす。 ・聴き取る能力、伝え話す能力(ことばの力)の向上をめざす。	・表現力に富んだスピーチができる。 ・評価項目「学校は様々な場面(授業・行事・委員会活動など)で表現力を高める取り組みを行っている。」における評価85％以上を目指す。	A	・一学期末は表現力の育成を図るためにきょうだい学級で一分間スピーチ発表会を行った。 ・アンケートにおいて、「学校は、様々な場面で表現力を高める機会をつくっている。」と回答した割合は、生徒が91.4%、保護者は87.4%になり、目標達成できた。 ・終礼時に一分間スピーチを実施しており、二学期以降などもテーマを変えて継続していく。	・一分間スピーチの指導を定期的に行う。 ・少人数のグループワークを通して、生徒一人ひとりが意見を言いやすい雰囲気作りを行う。 ・授業での発表を挙手制に限らず、意見を言い合うディベートなどに取り組む。 ・文化祭に向けての行事を通してよりよい表現ができるように指導する。 ・原稿の暗記や聴く姿勢などの指導を徹底する。	・適切に評価されている。 ・このまま継続して取り組んでほしい。
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・シラバスを有効活用する。 ・一人で知識を吸収できる力をつける。 ・学習習慣を定着させるために携帯・スマホの所持率を小中の連携により、減少させる。 ・目標やねらいを明確にし、振り返りを取り入れた授業力向上に努める。 ・週末課題を設定し、未提出者には学習優先の日を有効に活用する。	・生徒アンケートにおいて「自分は授業で積極的に発表しようとしている」と回答した割合が70％以上になる。 ・市内携帯所持率平均の20％以下にする。	C	・「積極的に発表しようとしている」という項目では、回答の平均が58.4%と、中間評価よりも更に下がった。特に2年生が49.7%と50%を割っているので改善が必要である。 ・本校の生徒の携帯所持率は46%と市内平均に比べるとかなり下回っているが、その中で「約束を決めている」と回答したのは89%となり、中間評価を上回っている。サイバー犯罪講演会などでの啓発が効果を上げていると考えられる。	・「本時の目標」を明確にし、生徒が「何を学び、何を身につけるか」を理解させる。 ・学習優先の日を活用し、学力向上の成果が見られるようにする。 ・保護者説明会やサイバー犯罪講演会などを通じて、なるべく携帯を所持させないように啓発すると共に、携帯の使い方やルールを理解させ、問題が生じた場合は被害が拡大しないようにさせる。また家庭にも協力をより強く求めていく。	・現在の携帯電話、スマートフォンの普及率から考えると目標値(所持率)を検討すべきではないか。 ・学習意欲の妨げにもなる携帯電話、スマートフォンの所持については、所持させないというわけにはいかないとし、家庭にもルール作りを促し、さらに学校、保護者で協力していく足並みが必要である。

豊かな心・健やかな体	自尊感情の育成	・生徒と教師間の信頼関係の構築 ・学級経営の充実。 ・基本的生活習慣の確立。 ・規範意識の向上を目指した指導を行う。	・職員間で、職員朝礼時に情報交換を行い、その日の生徒指導に生かす。 ・小学校に出向き、英語の出前授業を行う。 ・Q-Uを実施し、具体的対策を考え、学級経営に生かす。 ・道徳ローテーション指導の実施。 ・総合的な学習の時間にきょうだい学級での取り組みを取り入れる。 ・きょうだい学級の取り組みでは、合唱練習や生徒会活動を通して、上級生が下級生の見本となり、たてのつながりを実感できる取り組みを行う。 ・1分間スピーチを取り入れ人前で発言する機会を設ける。	・生徒アンケートにおいて「自分を大切にすることや他の人への思いやり」について、前年度の74%を上回る。 ・保護者の回答で我が子の自立心の向上と品位を備えて成長したと捉える割合を80%以上にする。	B	・生徒アンケートに関して、目標値である74%を引き続き上回った。保護者アンケートに関しては目標値である80%を下回ったが、1学期から比べると2.1%上回った。 ・生徒の中にきょうだい学級の取り組みが定着しており、各行事でもその結果が反映された。 ・QU調査を行い、活用についての研修を行い調査結果を分析することができた。前回の課題として、結果の十分な活用には至っていないことが挙げられていたため、引き続き研修などを重ねていく。 ・道徳ローテーション授業への取り組みが教職員、生徒ともに定着してきた。 ・英語で出前授業によって卒業間近の生徒たちが、大きな自信を	・QUの活用法についての職員研修を引き続き行い深める。 ・卒業式へ向け、きょうだい学級で培ってきたものを生かし自尊感情の育成につなげる。	・部活動以外の場面で異年齢による「きょうだい学級」という取り組みを今後も継続してもらいたい。 ・QU調査結果を学級経営にいかすとともに全職員で生徒の自尊感情を育む教育活動をしてもらいたい。
	体力の向上	・自ら進んで体力を向上させようとする生徒を育てる。 ・保健管理の啓発による丈夫な体づくりを行う。 ・校内の事故防止に努める。 ・食に関する指導に取り組む。	・学校保健委員会を開催し、PTAと連携した体力向上効果を目指す。 ・保体委員を通して健康管理の啓発を行う。 ・保健体育の授業では毎時間補強運動を行う。 ・委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の発表を行い、意欲向上につなげる。 ・柔軟体操を取り入れ、生徒の怪我防止、体力向上につとめる。	・スポーツテストの伊丹市の目標指数を昨年以上上回るために体育授業や課題活動を計画的に進める。 ・「早寝早起き、規則正しい生活を心がけるように呼びかけている」の①よくできるの評価を50%以上にする。	C	・「早寝・早起き、規則正しい生活を心がけるように呼びかけている」の評価が80%を超えた。呼びかけを継続し、①よくできるの評価を50%まで引き上げる。 ・学校保健委員会で癌やインフルエンザ予防を取り上げ、健康に対する意識を高めた。 ・保健だより等により生徒の健康管理啓発に成果をあげている。 ・スポーツテスト、タイムトライアルの成績上位者の発表を行うことで、生徒の意欲が高まった。	・ほけんだより、学年だよりを配布した際に担任が呼びかける。 ・学年集会や、全校集会などで機会を設ける。 ・月ごとの委員会活動等を活用し規則正しい生活についての啓発を行う。 ・学年、担任、個々の呼びかけを意識して行うことで、「規則正しい生活」の評価を上げる。	・昨年度の評価はBであった。早寝・早起きを励行し、規則正しい生活を心がけるようスローガンを掲げるなど、継続した呼びかけが必要では。

開かれ信頼される学校園	学校情報の積極的な発信	・積極的に学校情報を発信する。 ・PTA活動と協力して取り組む。 ・信頼感の醸成を基盤とした家庭・地域と連携をすすめる。	・学校だよりの発行やホームページの更新を積極的に行う。 ・生徒会などを通じて、ボランティアを募集し、地域の行事などに積極的に参加する。 ・土曜オープンスクールには、小3～小6の保護者にも来校を願う。また、学校補導連絡会開催時には、地域で健全育成に関わる方々の授業参観を行う。 ・教職員とPTA役員との顔の見えるよりよい関係づくり。 ・1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。 ・HPや学校通信、学年通信などの内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 ・生徒会役員だけでなく、他の生徒も地域活動ボランティア活動に意欲的に参加するよう勧める。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習への協力者登録を進める。	・情報発信を継続する。時々、ホームページにアクセスする家庭45%以上を目標にする。 ・地域の方々と生徒、職員が地域と学校間で双方向の活動が行われている状況を継続する。	A	・ホームページにアクセスした家庭は約48%となり、目標の45%を上回った。 ・ホームページは適宜更新している。 ・学校通信や学年通信など連絡文書も、約82%の家庭がよく読むと回答している。 ・約83%の家庭が家庭、学校、地域の連携が適切に行われていたと感じていた。 ・学校補導連絡会で授業公開を同時に行い、地域の方も授業見学している。 ・夏休みの登校日には、生徒が清掃活動をしながら登校し、地域貢献した。 ・オープンスクールを小学校3～6年の親子対象とした。(昨年度より継続) ・教職員が校内教育活動に専念できるようにと、親が我が子の行動に責任をもって子育てに励むPTAシャキット運動を粘り強く継続している。職員とPTA役員の協力体制は大変良好である。	・1、2年から進路に関する情報を適宜発信していく。 ・情報を発信するプリント類などは内容をより魅力的なものにすると共に、保護者に確実に渡すよう指導する。 ・生徒会だけでなく、他の生徒も地域活動に意欲的に参加できるよう、ボランティア活動への参加をよびかける。 ・地域の方に土曜学習や放課後学習への協力者登録を進める。 ・地域との関わりをさらに深める。(夏祭りや清掃活動などへの参画を継続し、保護者、職員の協力姿勢を子どもたちに示す。地域活動を生活の場として実感させる。)	・学校のホームページは3月にリニューアルされ、更新も頻繁に行われている。引き続き情報発信を行ってほしい。 ・学校からの情報発信により、PTA、地域の協力体制も強固になる。
		次年度に向けた重点的な改善点 ・本校は平成30年からコミュニティスクールの指定を受ける。次年度はコミュニティスクールを視野に入れ、学校、保護者、地域が連携と協働を図る上で、学校が抱える課題を明確にし、課題解決策を共有していく。 ・本年度の夏季校内研修会で、校区の小学校との合同研修会を試み、双方の課題や要望を共有する場となった。小中連携を推進していく上で、次年度も一堂に会した研修会をもつ。						

自己評価の基準 A: 目標を上回った B: 目標どおりに達成できた C: 目標をやや下回った D: 目標を大きく下回った